

令和7年度

全国学力・学習状況調査

結果の概要

令和7年10月

岩沼市教育委員会

令和7年度全国学力・学習状況調査

宮城県公立小・中学校の調査結果概要について

令和7年4月17日に実施された全国学力・学習状況調査の岩沼市の結果の概要をお知らせします。

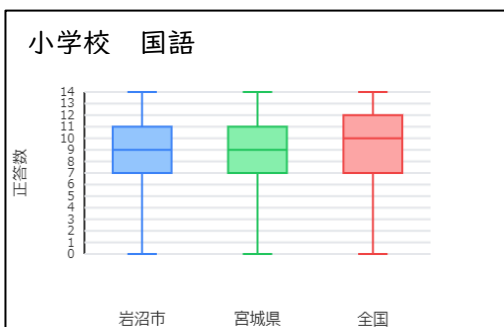
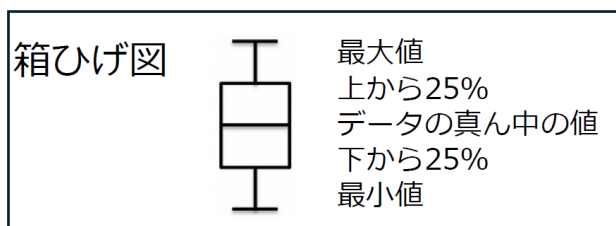
① 調査の概要

調査実施日	令和7年4月14日（月）～4月17日（木）
調査対象	①児童生徒：小学校6年生（367名）、中学校3年生（358名） ②学校：小学校（4校）、中学校（4校）
調査事項	①児童生徒：教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）および質問調査 ②学校：質問調査
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・CBT調査の導入（中学校理科） ・多様な児童生徒の状況把握 ・結果公表の内容・スケジュールの改善

② 宮城県の正答率・IRTスコア結果概要

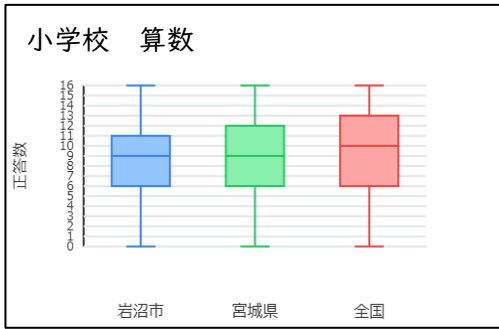
令和7年度	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
全国	67	58	57	54	48	503
県（仙台市を含む）	65	55	55	54	46	503
岩沼市	63	53	56	54	49	525

※中学校理科はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している



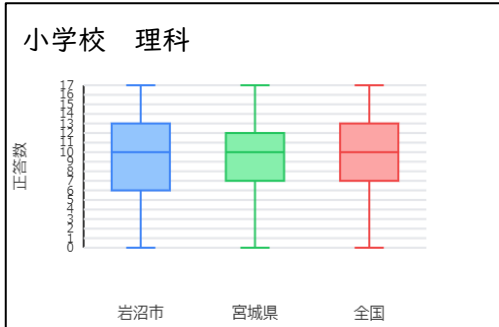
岩沼市の中央値は8.8点であり、宮城県の9.1点、全国の9.4点と比較してやや低い傾向が見られます。

得点のばらつき（箱の長さ）は全国・宮城県と同程度ですが、全体的に得点分布が下方にシフトしていることが分かります。



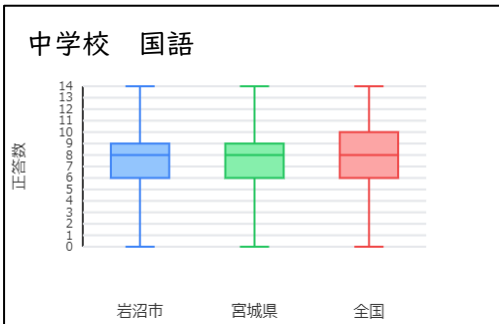
岩沼市の中央値は 8.5 点であり、宮城県の 8.0 点よりはやや高いものの、全国の 9.0 点よりはやや低い傾向にあります。

得点のばらつきは全国・宮城県と同程度ですが、中央値が全国平均を下回るため、全体的な得点分布もわずかに下方にシフトしていると言えます。



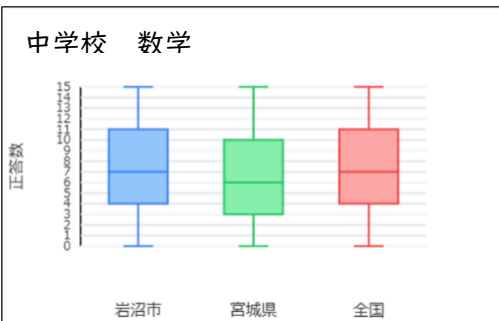
岩沼市の中央値は 9.4 点であり、宮城県および全国の 10.0 点と比較してほぼ同程度です。

得点のばらつきも全国・宮城県と同程度であり、全体的な得点分布に大きな差は見られません。



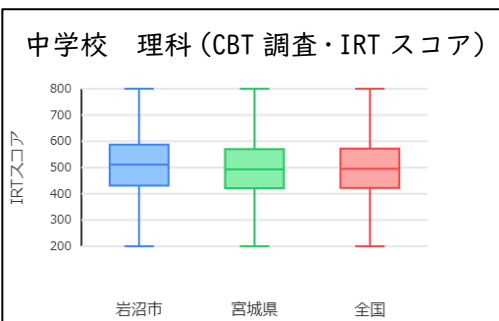
岩沼市の中央値は 8.0 点であり、宮城県および全国の 8.0 点と同じです。

得点のばらつきも全国・宮城県と同程度であり、得点分布に大きな差は見られません。



岩沼市の中央値は 7.0 点であり、宮城県および全国の 7.0 点と同じです。

得点のばらつきも全国・宮城県と同程度であり、得点分布に大きな差は見られません。



岩沼市の IRT スコア中央値は 525 であり、宮城県および全国の 503 と比較して高い傾向が見られます。

特に、25 パーセンタイル値（下から 25% の得点）が岩沼市は 493 と、宮城県の 431、全国の 421 よりも顕著に高いことから、比較的得点が低い層においても、宮城県や全国よりスコアが高い児童生徒が多いことが示唆されます。

得点のばらつき（75 パーセンタイル値と 25 パーセンタイル値の幅）は全国・宮城県と同程度です。

③ 教科に関する問題の調査結果 【小学校】

小学校国語

全国平均を上回った問題	岩沼市	宮城県	全 国
【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	55.9%	53.3%	53.3%
【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する	72.5%	72.1%	71.8%
全国平均とのかい離が見られた問題	岩沼市	宮城県	全 国
【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に書く問題	58.6%	57.3%	61.3%
【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	80.9%	81.3%	81.6%

小学校算数

全国平均を上回った問題	岩沼市	宮城県	全 国
小学校算数においては、提示された詳細な問題別調査結果において、全国平均を上回った問題は確認できませんでした。			
全国平均とのかい離が見られた問題	岩沼市	宮城県	全 国
使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	43.6%	44.2%	48.7%
五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	28.1%	31.9%	37.0%

小学校理科

全国平均を上回った問題	岩沼市	宮城県	全 国
ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く問題	72.8%	68.4%	70.7%
海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	67.6%	63.5%	65.6%
全国平均とのかい離が見られた問題	岩沼市	宮城県	全 国
水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	55.6%	55.6%	57.5%
電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ問題	51.0%	49.9%	55.1%

考察（小学校）

【国語】 岩沼市は、話し合い場面における発言の目的や意味を捉える問題で全国平均を上回っており、登場人物の意図を読み取る力や文章全体の流れを把握する力が育っていることが分かる。一方で、ちらしを基に詳しく書く問題や資料からの抜き出しでは小さいものの全国との差が見られた。自分の言葉で表現する力や情報を整理して正確に書き抜く力については、引き続き強化する必要がある。

【算数】 全国平均を上回った問題は確認されなかった。特に、日常生活に関わる数量の扱い（ハンドソープの残量問題）や、図形の分割による面積の求め方で全国平均を下回った。算数的な見方・考え方を基に、状況を数学的に表現したり、複雑な図形を整理したりして考える力に課題があるといえる。基礎的技能の定着を図りながら、学習した知識を生活事象や新しい場面に応用する力を育成する必要がある。

【理科】 岩沼市は、ヘチマの花の受粉や海面上昇の科学的予想など、観察結果や科学的根拠を基に考える問題で全国平均を上回った。これは、事実を基に考察する力が育成されていることを示している。一方で、水の結露に関する説明や電気回路の理解では全国を下回り、知識を関連付けて説明する力や条件に応じた回路構成を判断する力に課題がある。実験結果を基に推論したり、仕組みを図やモデルで理解させたりする指導が求められる。

④ 教科に関する問題の調査結果 【中学校】

中学校国語

全国平均を上回った問題	岩沼市	宮城県	全 国
聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する問題	82.7%	78.1%	77.9%
【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く問題	92.5%	89.5%	89.9%
全国平均とのかい離が見られた問題	岩沼市	宮城県	全 国
【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する問題	15.6%	16.6%	17.1%
自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題	29.6%	27.5%	31.0%

中学校数学

全国平均を上回った問題	岩沼市	宮城県	全 国
A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおおよそ何円になるかを求める方法を説明する	42.7%	35.4%	38.0%
四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	64.0%	58.6%	58.5%
全国平均とのかい離が見られた問題	岩沼市	宮城県	全 国
Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	75.7%	74.9%	77.4%
果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す	46.4%	48.2%	51.9%

中学校理科

全国平均を上回った問題	岩沼市	宮城県	全 国
水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	82.9%	78.5%	79.4%
【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	19.7%	12.8%	14.0%
全国平均とのかい離が見られた問題	岩沼市	宮城県	全 国
クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	37.7%	54.8%	58.1%
大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する	41.8%	41.2%	42.2%

考察（中学校）

【国語】 聞き手の反応を踏まえて発言理由を判断する問題や資料から語句を抜き出す問題で全国平均を上回り、他者の意図を理解する力や資料を正確に読む力が育っていることが示された。一方、自分の経験を基に考えを整理する問題や根拠を示して文章を書く問題では全国平均を下回っており、論理的に書く力の育成が課題である。

【数学】 運賃計算など身近な事象を数学的に説明する問題や、証明を振り返り新たな事実を導く問題では全国を上回り、生活や論理に結び付けて考える力が育っていることが示された。一方、確率や文字式の基礎問題では全国を下回り、基礎概念の定着が課題である。

【理科】 探究の過程を振り返って記述する問題や、必要な実験を選び予想する問題では全国を大きく上回り、科学的に考察する力や探究を深める姿勢が確認された。一方、気圧を利用した事象や地層に関する理由記述では全国を下回り、生活や既習内容と関連付ける力に課題がある。

⑤ 児童生徒質問調査結果

〈小学校〉

ICT 機器の活用

質問事項	岩沼市	宮城県	全 国
自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	86.5%	82.8%	81.3%
友達と協力しながら学習を進めることができる	91.3%	88.5%	87.5%

授業家庭学習への取組

質問事項	岩沼市	宮城県	全 国
分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	86.0%	82.7%	81.7%
友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	86.3%	85.9%	84.9%

各教科への興味・関心、理解度

質問事項	岩沼市	宮城県	全 国
国語の勉強は得意ですか	60.9%	63.7%	61.4%
算数の勉強は得意ですか	63.1%	58.7%	60.3%
理科の勉強は得意ですか	82.5%	79.4%	78.4%

考察（小学校）

【ICT 活用】 岩沼市の児童は「自分のペースで理解しながら学習を進める」（86.5%）、「友達と協力しながら学習を進める」（91.3%）のいずれも全国平均を上回っており、ICT 機器を活用しながら主体的かつ協働的に学ぶ力が育っていることが分かる。個別最適な学びと協働的な学びの双方がバランスよく機能している点は特色である。

【授業・家庭学習への取組】

「自分で学び方を考え、工夫する」（86.0%）、「話し合いを通じて考えを深める」（86.3%）のいずれも全国を上回っており、主体的に学ぶ姿勢や対話を通じた思考の深化が進んでいることがうかがえる。自ら学習を工夫し、仲間との交流で新たな視点を獲得できていることは大きな成果である。

【各教科への関心】

理科（82.5%）では全国を大きく上回り、自然現象や科学的な学びに対する関心の高さが見られる。一方、国語（60.9%）は全国をやや下回っており、言語活動に対する自信や得意意識の向上が課題である。算数（63.1%）は全国平均をやや上回り、基礎的理解の定着が進んでいることが示されている。

〈中学校〉

ICT 機器の活用

質問事項	岩沼市	宮城県	全 国
1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか	86.6%	66.2%	53.2%
PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	69.9%	67.8%	63.3%

授業家庭学習への取組

質問事項	岩沼市	宮城県	全 国
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	75.3%	73.8%	73.4%
、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	96.4%	92.3%	91.9%

各教科への興味・関心、理解度

質問事項	岩沼市	宮城県	全 国
国語の授業の内容はよく分かりますか	79.1%	77.9%	77.0%
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	78.3%	75.0%	75.2%
理科の授業の内容はよく分かりますか	78.2%	74.5%	71.4%

考察（中学校）

【ICT 活用】 「1、2年生での ICT 活用経験」は 86.6%と全国（53.2%）、県（66.2%）を大きく上回っており、早期から ICT 機器を日常的に活用してきた成果が表れている。また「情報を整理できる」と回答した割合も 69.9%と全国平均を上回り、ICT を用いた思考整理や表現力の基礎が培われていることが示されている。

【授業・家庭学習への取組】

「学習の振り返り」（75.3%）、「協力的な課題解決」（96.4%）のいずれも全国を上回り、特に協働的な学びの場面で非常に高い数値を示している。ICT の活用が学習形態の多様化を促進し、友達と協力しながら課題解決に取り組む学習態度の育成が図られた結果であると考えられる。

【各教科への関心】

国語（79.1%）、数学（78.3%）、理科（78.2%）はいずれも全国を上回っており、特に理科では全国との差が 6.8 ポイントと大きく、理解度が高いことが分かる。国語や数学においても「将来社会に役立つ」と認識する割合が高く、学習の意義を見出している点の特徴である。

⑥ 岩沼市教育委員会の対応について

(1) 授業改善

① 「主体的・対話的で深い学び」の実現

岩沼市の児童生徒は、ICT を活用して自分の考えを整理し、仲間と意見を交わしながら学習に取り組んでいる。今後も一人一人が意欲をもって考えを深められるよう、授業の工夫を一層進めていく。

② 課題解決・探究的な学び

全国平均を下回った「根拠を基に説明する力」や「グラフを読み取り記述する力」に重点を置き、答えを導くだけでなく、理由を明確にして考えを広げ深める学習を展開する。

③ 自由進度・選択的な学び

得意分野や課題に応じて、自分のペースで学習を進める活動を取り入れる。成果を共有することで学びを広げる力を高め、個別最適な学びを具体化していく。

④ 小中接続の強化

ICT 活用において小学校の実践が先行している。小学校で培った力を確実に中学校につなぎ、中学校でも活かせるよう、小中の連携をさらに深めていく。



実験を撮影し、繰り返し再生しながら仲間と共に細かな変化を見つける

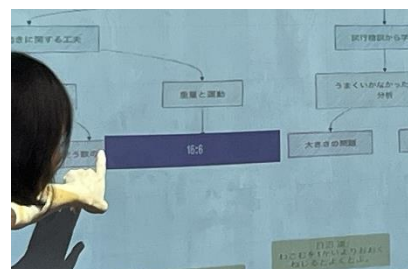
(2) ICT の活用

① 個別最適な学び

児童生徒が「自分は何を解決したいのか」という問いを持ち、学びを主体的に進められるようにする。ICT を活用し、学習方法や課題を選べる環境を整えることで、得意な子も苦手を感じる子も自分に合った学習に取り組めるようにする。

② 協働的な学び

ICT で意見を可視化し、仲間の考えから学び取る授業を進める。互いに考えを修正し合うことも学習の一環であると捉え、協働的な学びをさらに推進していく。



アプリを活用して児童生徒の考えを分析・可視化

(3) 家庭学習

① 自立した学習者の育成

宿題は一律ではなく、児童生徒が自ら目標や計画を立てて取り組めるようにする。学年を超えて得意を伸ばす学習や基礎の補充も重視する。

② 探究的な家庭学習

複数の知識を関連付けたり、教科を横断した学びに取り組んだりすることで、将来につながる学習習慣の定着を図る。

(4) 教師の指導力向上

① 学習指導要領の理解と実践

教科ごとの目標を確認し、単元で育てる力を明確にする。授業では正しい言葉や記号を用いさせ、学習の振り返りを大切にする。

② 教育観・指導観の見直し

従来の枠にとらわれず、ICT や探究的な学びを積極的に取り入れ、新しい授業づくりに挑戦していく。

岩沼市は、全国や県と比較して課題もあるが、中学校理科などで全国を上回る成果も見られた。こうした強みをさらに伸ばしつつ、課題となった「表現力」や「根拠をもって説明する力」を重点的に高め、個別最適な学びと協働的な学びを ICT の力で推進する教育を進めていく。

なお、全国学力学習状況調査については、国立教育政策研究所のホームページ (<https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/index.html>) に詳しく解説されています。



